

5 鳴くのはオスとメスのどちら

上の2枚のはね(前ばねのこと)が、ヤスリ(金属をけずる工具)のようになっていて、それをすり合わせて音を出します。弦楽器(げんがっき)の音を出す仕組みと似ています。音を出す仕組みを持っているのは、一部の例外(れいがい)を除(のぞ)いてオスだけです。

◆キリギリス・コオロギ類

キリギリス



「ギース・チョン」と鳴きます。真夏に草むらにいます。キリギリスはよく似(に)た2種類あることがわかりましたが、区別せずにキリギリスとしておきます。ちなみに両方の種類はヒガシキリギリス(主として東日本にいる)とニシキリギリス(主として西日本にいる)で、奈良付近では両方がまじっています。キリギリスのなかまにはツコムシ、ササキリ、その他数グループがあり、そのほとんどが草むらにいます。

エンマコオロギ



「コロコロリー」と鳴きます。草むらの地面や枯れ草の下などにいます。エンマコオロギはコオロギのなかまの中では最大です。コオロギのなかまには有名なスズムシやマツムシもいます。

◆バッタ類

トノサマバッタ、ショウリヨウバッタ、ナキイナゴなどが音を出します。後ろあしの内側がヤスリのようにになっていて、ここを前ばねの外側とすり合わせることで音を出します。

トノサマバッタ



「シリ・シリ・シリ」という音を出します。トノサマバッタに似(に)たなかまで、同じような音を出すバッタは数種類あります。

ショウリヨウバッタ



飛ぶときに「キチキチ」という音を出します。音を出すのはオスだけで、キチキチバッタとも呼ばれています。



ナキイナゴ



小型のバッタで、「ジャ・ジャ・ジャ」という音を出します。

◆セミ類

クマゼミ



オスのクマゼミです。右の写真は腹面です。腹部に発音器(はつおんき)という音を出す器官(きかん=写真の茶色の部分)があり、ここで発生させた音を腹部の共鳴室(きょうめいしつ)という空洞(くうどう)になった部分で大きくします。メスにはこれらの器官はありません。したがってメスは鳴きません。セミ類はすべて同じです。



「共鳴」とは、音は、まわりの物を振動(しんどう)させます。音が伝(つた)わっていった物体が振動(しんどう)をして、その物体もまた音を出すことがあります。このような現象を共鳴(きょうめい)といいます。

◆鳴くのはどちら???

キリギリス



鳴くのは①オス、②は鳴かないメスです。メスは産卵管(さんらんかん=卵を産む針のような管)が腹部の先から突(つ)き出ています。

エンマコオロギ



鳴くのは②オス、①は鳴かないメスです。オス、メスのちがいはキリギリスと同じです。

◆ツクツクボウシ



①



②

鳴くのは②オス、①は鳴かないメスです。メスは腹部の先が細長くなっています。これは産卵管(さんらんかん)があるためです。腹面を見ればオスは音を出す器官があるので、よくわかります。

6 どのように冬を越(こ)すのだろう

冬をすごすことを越冬(えっとう)といいます。成虫、さなぎ、幼虫、卵(たまご)、それぞれの形での越冬があります。成虫で越冬するものは朽ち木(くちき)の中、土の中、枯れ草の下、その他いろいろです。

テントウムシ、ヨモギハムシ、ツチイナゴなどは冬の草の根元近くでよく見かけます。

フタモンウバタマコメツキ



大きなコメツキムシです。朽ち木の中で成虫で越冬しています。

オオスズメバチ



朽ち木の中で成虫で越冬しています。春に女王バチになるハチです。オスと働きバチ(メス)は晩秋(ばんしゅう=秋の終わりころ)にすべて死んでしまいます。

クビキリギリス



キリギリスのなかまです。土のくぼみで成虫で越冬しています。キリギリス類で成虫越冬するのはクビキリギリスだけです。

ウラギンシジミ



ウラギンシジミの成虫が、常緑樹(じょうりよくじゅ=カシ類など)の葉のうら側で越冬しています。